

女子青年の人格形成に及ぼす影響について(第9報)  
 —青年期の経験が後の母性に与える影響について—  
 帯広文谷高 山田昌子

目的 青年期の情緒的経験から得た考え方が、現実の家庭生活に如何に影響を及ぼしているのかについて、次の様な検討を行つてより詳細な状況の分析を行つてみた。

方法 1. 現在女子青年期にあるもの(A)と、現在家庭生活を営んでいるもの(B)の間で、夫婦間関係、親子関係(児童観、育児観)に違いがあるかどうかを吟味することにより、一般的に女子青年期と家庭経営期との間の連続性の有無とみとみる。  
 2. 第3報ですでに抽出したケース(一般家庭より2名、欠損家庭より2名)を用いて、上記の項目について、女子青年期から家庭経営期に至る間に変化があるかどうかを断片的に検討してみる。

結果 女子青年期にあるものと、現在家庭生活を営んでいるものとの間での夫婦間関係、親子関係(児童観、育児観)についての考え方は、殆んど同じであることが解つた。また青年期に味つたに於いて経験は、将来営もうとしている、また現在営んでいる自分の家庭生活に於ては再び繰り返さなくてはならないとの強い拒否感と、よい経験はとり入れてゆきたいと努力している生活の実態をみることもできた。